



当初の予定では、初日は三峰から雲取山荘に泊まって、次の日に長沢背稜を経て一杯水に行って鍋料理、最終日は棒の峰から秩父側へ下るはずであった。秩父側の下りがちょっといやらしいな、あとはやたら長いけれど厳しくはない、という風に思っていた。一番長い二日目は雨の予報であったが、起きてみたら一面の雪である。庵原リーダーの“とりあえず芋ノ木ドッケまで行ってみて、その先をどうするか考えましょう”



との話で、朝6時にヘッドランプをつけてスタートして芋ノ木ドッケまで1時間少々で行ってみた。吹き溜まりでは20cmくらいあったであろう。“今日は無理です。下山しましょう”ということになって、一杯水での鍋料理はご破算になった。一杯水には角田リーダーと金峰小屋の斎藤さんが荷揚げをして待っていたくれる予定であったが、もちろんこれも徒労に帰した。毎日新聞旅行のカタログを見て、一杯水避難小

屋で「鍋料理」と見た時に、こんなことできるのかなあと疑問を抱いた。先客がいたら、ツアー客がワーワーしたらヒンシュクを買ってしまうのではないかと思ったのである。しかし下山した鴨沢で角田さん達と合流したのでこのことを聞いてみたら、“女峰などではもう何回もやっていますよ”という返事であった。先客がいた時などは、彼らは外にテントを張って、鍋に誘ってやればたいていはOKですということであった。もう一人のリーダーは高野さん、この8月からツアーリーダーになったということで、昔は大学の山岳同好会出身。年は定年過ぎのように見えるが、請われもしないのに「谷川小唄」などを全曲歌ったりしてまだ気は若い。皆から“小室さんよりいいね”と言われていた。メンバーは女8人、男5人で、避難小屋泊でシュラフ持参というのにしては女が多い。しかも鍋料理で酒付き。本当に女は強くなった。